

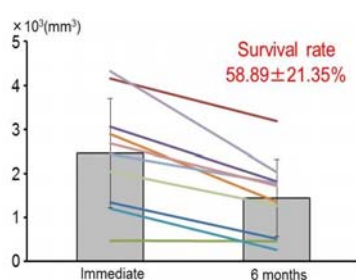
平成 24 年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔外科 1（制御系）
研究期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
研究課題名：β-TCP 併用顎裂部オトガイ骨移植術の治療結果
研究課題の概要及び成果： <p>【目的】当科では唇顎口蓋裂患者に対して行う顎裂部骨移植術に、オトガイ骨移植術を積極的に選択している。しかし、オトガイ部からの採取し得る海綿骨量は限られているため、β-リン酸三カルシウム(以下β-TCP)を主成分とする骨補填材により移植骨量を補っている。今回我々は、コーンビーム CT を用いてβ-TCP を併用したオトガイ骨移植術の術後評価を行った。</p> <p>【症例】当科にてβ-TCP 併用顎裂部オトガイ骨移植術を行った片側性口唇口蓋裂患者 26 名(片側性唇顎裂 10 名、片側性唇顎口蓋裂 16 名)を対象とし、術直後及び術後 6 カ月、術後 1 年に撮影したコーンビーム CT 像を用いて評価を行った。移植部における骨梁構造の形成の程度及び、移植骨量の維持率について評価した。</p> <p>【結果】術後 6 カ月で、裂部に移植された移植骨は約 60%残存していた。しかし、移植骨の維持率は移植部位によって大きく異なり、唇側歯槽外（裂の唇側外側）に移植した骨は 90%以上の吸収を認めた。また術後 6 カ月で全ての症例で骨移植部に骨梁構造が形成されており、β-TCP の粒状構造はわずかに散見される程度であった。さらに術後 1 年では移植骨は周囲骨とほぼ同様の骨梁構造を示した。</p> <p>【考察】オトガイ骨とともに移植されたβ-TCP は約 6 ヶ月でほぼ正常な骨組織に置換され、さらに術後 6 カ月での吸収が約 40%にとどまっていたことから、本術式は口唇口蓋裂患者に対する顎裂部骨移植術に有効であると考えられた。</p>

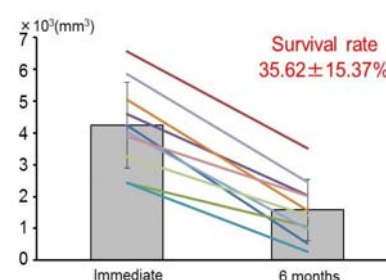
上記概要・成果に関連する図表等



β-TCP 併用骨移植術術後 CT 所見



裂部では移植骨の 60%が残存した



裂内外をあわせたトータルでの骨維持率